

主筆 牧野富太郎

## 植物研究雜誌

第三卷 第二號

大正十五年二月二十八日  
發行所 東京 津村研究所

## ○私ガ内務省ノ榮養研究所ヲ退イタ經緯

東京帝國大學理學部講師

牧野 富太郎

私ハ内務省カラ「榮養研究所事務取扱ヲ囑託ス月手當七拾圓給與」ノ辭令ヲ受ケテ大正十一年十二月二日カラ同省所管ノ榮養研究所ニ兼勤シテ居ッタガ意ニ滿タヌ事ガアツテ斷然私ノ方カラ榮養研究所ヲ見限り乃チ内務大臣宛ニ辭表ヲ提出シ大正十二年三月三十一日ニ同省カラ「依願榮養研究所事務取扱囑託ヲ解ク」ノ辭令ヲ得テ在職僅カニ四ヶ月デ同日限り同所ヲ退イタ是ヨリ先キ同月十二日ニ所長佐伯矩氏カラ突然學者ノ體面ヲ無視シタ高壓的ナ且專斷的ナ性質ヲ帶ビタ所長ノ意見ヲ聽カサレ其レニ對シテ私ハ左ノ書付ケヲ同所ノ囑託岡崎桂一郎博士(私ノ學問ヲ信ジテ懇切ニ私ヲ推薦セラレシガ)并ニ同所ノ事務長タル佐原惟實氏ニ差出シ遂ニ辭表提出ニマデ到着シタノデアル所長は去る十二日所長室で、小生を無給にして置いて、そして一週間に一個づゝの仕事が出来たならそれに對して御禮をすると言はれた、此言を發せし所長の頭の中はよく小生には讀めては居るが、然し金で釣って仕事をさせ様とする、即ち職人を使ふ様な方法が小生には氣に入らぬ、それ故此の様な方法の下で斯の大事業の爲めに働くのは、小生は嫌やだ、若し所長が此の様な商人的根性なれば、小生は辭職するまでだ、早速此事を所長に傳へられたし、小生は其返事の如何によつて小生の進退を決しようと思ふ 大正十二年三月十四日

私ガ同研究所へ就職スル前、即チ大正十一年十一月一日ニ私ハ次ニ掲グル私ノ意見書ヲ佐伯所長ニ渡シテ置イタ私ノ意見ハ其後モ依然トシテ變ラナイケレドモ要スルニ怜悯ナ人ニモ似合ハズ佐伯所長ニヤタラニ自分ノ功ヲ急グノ弊ガアツテ充分ナ研究上ノ理解ニ乏シク且ツ學者ヲ率キルノ道ニ暗イト私ハ解スルノデ當時私ノ此意

私ガ内務省ノ榮養研究所ヲ退イタ經緯

見ヲ同所デ試ムルコトハ不幸ニシテ上述ノ如ク不可能ニ了ッテ仕舞ッタ然シ囊ノ中ノ針ハ何時何處ヘデモ鋒芒ヲ露ハシ、ごむ玉ハ一方ヲ押ユレバ必ズ他方ヘ膨レルカラ國家ノ爲メ何處カデ私ノ主張ヲ實現サセ得ル機會ガナイデモナカラウト信ズル、前ニ述ベタ私ノ意見書トハ即チ次ノ如キモノデアッタ

### 食用トナル野生ノ植物ノ調査ニ就キ卑見ト希望

牧野富太郎

國民ノ食料ニ關スル問題ハ國家トシテ最モ至重至大ナモノデアアル是レハ人間ノ生活上ノ事柄デアアルカラデアアル故ニ國家ハ當ニ其食料ニ就テ一切ノ問題ヲ處理解決スベキ重大ナ責任ヲ有スル、此理由ニヨレバ苟モ食ニ中ル物ハ國家ノ爲メ悉ク皆之レヲ研究シ置カネバナラヌ事ガ自ラ明カデアアル

我日本ノ國土ニハ草木ノ品種ガ最モ豊富デアアル從テ古來我邦ノ人々ガ平素其食物トシテ作物以外ノ此山野ノ野生品マデモ見逃サナク之レヲ利用シ居ル事ハ今モ尙ホ昔ト變ル事ガナイ其レハ單ニ之レヲ誤樂の趣味的ニ用ウルノデハナク實ニ人命ヲ繋グ必要品トシテソレヲ採リ用キ以テ日常作物等ヨリ取り居ル食物ノ不足ヲ補ヒツ、アルノデアアル、ソシテ其食物ニシツ、アル草木ノ種類ハ元來ガ土産ガ豊富ナ國デアアル故ニ從テ其種類ガ頗ル夥シク實ニ幾百ヲ以テ算フル程デアアル

既ニ之レガ人間ノ至重ナ食品デアアル以上ハ之レヲ徹底的ニ研究スル事ハ國家トシテ當然ニ濟スベキ事デアアル又尙ホ未ダ之レヲ用キズソノマ、空シク山野ニ遺リアルモノガ固ヨリ少ナクナイノデアアルカラ進ンデ能ク此等ヲモ研究シ食品トナルベキモノハ早速ニ之レヲ利用シ一層食用品ノ増加ヲ圖ル事モ亦最モ大切ナコトデアアルト謂ハネバナラヌ

平素無事ノ日デサヘモ食物ノ事ハ、誰モガ疾ニ知悉シ居ル様ニ、固ヨリ緊切ナ件デアアル況テヤ何カノ原因ガアツテ食料ノ缺乏ヲ來セシ時又ハ一朝國家ニ大事ガアツテ食料ヲ得ルニ途ナキ場合ニハ此補食ノ事ハ決シテ等閑ニ附スベカラザル問題ト化スル、最モ適切ナ近イ例ヲ求ムレバ彼ノ歐洲大戰亂ノ時獨逸國ハ四境ヲ聯合軍ニ扼

セラレ國內ハ食料ノ缺乏ヲ來タシタ此時同國デハ其缺乏ヲ補充センガ爲メニ國民ニ山野ノ植物ヲ食フベキ事ヲ獎勵シ一枚摺ノ食用トナル野生植物ノ指南圖ヲ印刷シテ廣ク之レヲ民間ニ配ツタコトガアッタ是レニ由テ之レヲ觀テモ平素無事ノ日ニ豫ジメ此等ノ事ヲ研究シ置キ一朝、事が起ツテモ狼狽セヌ用心ガ極メテ肝腎デアル所以ガ解カルデハナイカ、天ガ未ダ陰雨セヌ前ニ其牖戸ヲ網繆セネバナラヌ事ハ實ニ明白ナル真理デアル不肖ハ上述ノ點ニ就テ感ガ殊ニ深ク依テ從來種々野生ノ植物ノ食料トナルモノニ注意シ自ラ試食シタ草木ノ數モ亦數十ニ上ツタ今ヨリ四年前ニハ野生植物ノ試食會ヲ東京デ開催シ大ニ此方面ノ事ノ重大デ忽諸ニ附シテハナラヌ事ヲ世人ニ鼓吹シヨウトシタケレドモ不幸ニシテ當時、會ヲスル費用ヲ得ルコトガ出來ナカッタ爲メ遂ニソレヲ果サナカッタ事ガアッタ(其時ノ料理人ハ其道ニ通達シ居ツタ奥村繁次郎氏ガ其任ニ當ルコトニナツテ居ツタ、同氏ハ惜イコトニハ其後物故シタ)爾來引キ續キ此方面ノ事ニハ特別ノ注意ヲ拂ヒ各地ニ旅行スル毎ニ到ル處デ土人ニ其食用ニスベキ草木ヲ聽キ其種類ヲ詮義シ其食法ヲ尋ネ以テ今日ニ至ツタノデアル

明治維新前時代ニハ時々飢饉ガ襲來シタ維新後モ尙ホ數度ノ飢饉ガアッタ飢饉ハ國ニ取ツテノ一大非常事件デアル從テ救荒ノ植物ノ研究ガアツテ其用意ガ頗ル周到デアッタ又其救荒ノ植物ノ書イテアル書物モ多ク出來テ世ノ中ヲ裨益シタ、ソシテ今日デモ尙ホ參考ニ供スベキモノガ決シテ尠ナクナイコトニナツテ居ル

然ルニ其多數ノ書ノ弊ハ一ニ支那ノ「救荒本草」ト云フ書ヲ本尊トシテ之ヨリ出發シ敢テ其方面ノ實際ノ知識ノナイ者ガタゞ机上デ之レヲ編纂シタモノガ多イコトデアアル從テ其食法ノ記事モ實際ト合致セヌモノガ少ナクナイバカリデナク此等ノ書ニ採録シテアル食用植物ニハ其種類ニモ不徹底ノ點ガ多ク中ニハ食フニ堪ヘヌ植物ガ食フベキモノトナツテ居ルナドノ滑稽モアツテ實際ノ用ヲナサヌ事ガ屢々見出サル、又實際ニ食用トナシツツアル植物ガ此等ノ書ニ漏レテ居ルモノガ頗ル多イコトモ亦爭ハレヌ事實デアアル

其レ故不肖ノ常ニ感ズル所ハ此食用植物ノ研究ヲ完成センニハ必ズ先ヅ實際ヲ第一トシ書籍ヲ第二ニ置カネバ

ナラヌ事デアアル即チ實地ニ就キ我邦諸國ノ人々ノ實際之レヲ食用ニシツ、アル實物ヲ探究精査シ其植物ノ品種ヲ親檢シテ其名稱ヲ明カニシ兼ネテ其實際ニナシツ、アル食法ヲ究ムルノデナカッタナラバ其完全ナル解決ハ決シテ出來ヌ事ト信ズル又書物ニシタコロガ斯ノ如ク實際ノ事ガ記載シテナクタバ古書ノ拔キ書キグライデアッタナラバ其書ハ何ノ權威モナイモノデアアル、又食用トシテ既ニ用キツ、アルモノヲ參考トシテ更ニ新食品ノ發見ニ歩ヲ進ムルノモ亦甚ダ有益ノ事デハアルマイカ、故ニ不肖ハ此ノ如キ方針ノ下ニ之レガ研究ヲシテ見タイト希望スルノデアアル

之レヲ濟スニハ榮養研究所ガ最モ適當ナル場處デハナイカト信ズル、幸ニ不肖ガ之レニ關係スルトセバ不肖ハ主トシテ

〔第一〕日本諸國ニ於テ實際ニ食用トシツ、アル野生植物ノ調査并ニ實際ニ行ハレツ、アル食法ノ調査

〔第二〕其植物ノ標本調製并ニ製品等

(例ハ干菜、調味料、乾菜類、如キ)ノ蒐集

〔第三〕其植物生本ノ採集并ニ研究所ヘノ送致

〔第四〕其標本并ニ製品等ニ解説ヲ付シテ之レヲ研究所

ニ陳列シ我日本ノ野生食用植物ヲ一目ノ下ニ人々ニ示ス事

〔第五〕其植物ノ生本ヲ研究所ノ見本園ヘ栽培スル事

〔第六〕完全ニシテ權

威アル野生食用植物ノ書ヲ編纂スル事

等ノ事項ヲ擔當シテ見タイト思フ

上ノ様ナ遣リ方ハ日本ニ於テ始テノ試ミデアアルバカリデナク此企ハドウシテモ國家ノ爲メニ實現セシメネバナラヌ必要ガアルト思フユエ今之レヲ榮養研究所デ實行スルコトハ確カニ研究所トシテモ適當ナ仕事デナイカト愚考スル、幸ニ岡崎博士ガ補食植物調査ノ主任デアアル、トノ事デアアルカラ其下デ右様ノ事ガ着々實行セラルレバソハ誠ニ國家ノ慶デアアルト信ズル

上ノ〔第五〕ナル野生食用植物ヲ園ニ栽培スル事ハ極メテ有益デ且ツ興味ノアル事ト思フ又之レガ記事ヲ作り圖書ヲ作成スル上ニモ直チニ便利ヲ得ル事ト信ズル又時ニ臨ンデ園中ノ生品ヲ採摘シテ之レヲ試食シ研究ノ資ニ供スル事モ容易デアアルト思フ又隨時來觀者ニ其生品ヲ見セテ其知識ヲ與ヘ其注意ヲ喚起スルノモ亦研究所トシテ洵ニ有意義ノ事デアアルト考ヘル

大正十一年六月二十七日